

第7次総合計画策定に向けた  
地区別ワークショップ（河東地区）要旨

【日時】 平成27年8月5日（水） 18：30～20：00

【場所】 河東公民館 会議室

【市民ワークショップ 参加者】 15名

【ファシリテーター（進行役）】 日本経済研究所2名

【事務局】 会津若松市役所職員 3名

【オブザーバー】 4名

【配付資料】

- ・資料1 地区別ワークショップ（河東地区）次第
- ・資料2 地区別ワークショップ資料 会津若松市 全体資料
- ・資料3 地区別ワークショップ資料（河東地区WS） 河東地域

テーマ：「魅力ある河東地区を育てる（農業、スポーツ etc.）」

【議事】

1. 開会（企画調整課）

2. 配布資料説明

① 新総合計画について（企画調整課）

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

② 会津若松市・地区別の概況について（進行役：日本経済研究所）

3. ワークショップ（進行役）

① 第1部 まちの良いところ

・自己紹介

・わがまち（河東地区）の良いところ・特徴的なところをポストイットに記入（作業）（別紙参照）

・記入した内容を各自グループ内で発表

・グルーピングしてキーワードを設定

i) Aグループ

歴史・観光、自然が豊か、高齢者が元気、スポーツ・文化活動が盛ん、おいしい米と水、どぶろく、強清水のそば、防犯活動が盛んで安心・安全な町、人とのつながりが強い（無人・会合）、アクセスが良い

ii) Bグループ

人情豊か、村親戚、人とのつながり、地域のつながり、お米が美味しい、お獅子山、カッパ沼、自然が多い、自然の豊かな町、皆鶴姫お祭り、歴史のある町、文化財が多い、

交通の便が良い、

iii) Cグループ

米がおいしい、自然が豊か、四季がはっきりしている、自然が美しい、町内全員参加のスポーツ大会、農作物が美味しい、地域みんなが協力的

② 第2部 キャッチフレーズの作成

- ・わがまち（河東地区）の良いところを踏まえて「魅力ある河東地区を育てる（農業、スポーツ etc.）」をポストイットに記入（作業）（別紙参照）
- ・グループ内での発表
- ・グループのポストイットを確認しながら、改めて、河東地区の良いところと「魅力ある河東地区を育てる（農業、スポーツ etc.）ための方法」を議論し、適宜ポストイットの追加、貼り替え
- ・発表内容、発表者決定

i) Aグループ

キャッチフレーズ：美味しい食事とスポーツのまち、自然豊かでおいしい食べ物、豊かな自然がある美味しい米と水の町、人のつながりが強く安心して住めるまち

アピール方法についての意見：

- ・パンフレットでは伝わらない人と食を伝える
- ・体験してもらう（農業体験など）
- ・民宿化
- ・日新館の座禅
- ・農業を知らない子供たちの体験
- ・健康の大切さを伝える
- ・女性向けのイベントを増やす

ii) Bグループ

キャッチフレーズ：歴史ある自然豊かな町、地域の交流、人情味豊かな町、交通の要衝地として発展する町、米と野菜が美味しい町

アピール方法についての意見：

- ・地域の良さを知ってもらい、都会の人が空家へ移住できるようなPR

その他意見：

- ・飲み会を増やす
- ・道の駅、農家レストラン

iii) Cグループ

キャッチフレーズ：自然豊かな米とスポーツのまち、自然豊かな米と人情の町、自然災害の少ない住みよいまち

アピール方法についての意見：

- ・情報発信（ブログ、SNS）
- ・地域の魅力の再認識

その他の意見：

- ・取り組むためのお金が必要である

### ③ 第3部 各グループ発表

- ・各グループの成果について、全体発表

#### i) Aグループ

- ・まちのよいところ

→農業（食）、自然、アクセスの良さ

- ・キャッチフレーズ

→「人よし食よし 歴史と観光 会津の要（へそ） 元気な河東」

→「スポーツや文化活動で元気いっぱい！！長寿の町、河東」

- ・アピール方法

→地区外の人に来てもらい、様々なことを体験してもらう

→他の地区の人に魅力を伝える

- ・具体策

→農業参加を募り、体験してもらう／パンフレットにない人と食を伝える／地域外の人に体験してもらうための受け入れ体制を整える／若い人の参加を促す／個人でも楽しく参加できるようにする／健康の大切さを伝える

#### ii) Bグループ

- ・キャッチフレーズ

→「歴史のある自然豊かな町」

→「交通の要衝地としてこれから発展する町」

→「米と野菜が美味しい町」

→「地域の交流 人情味豊かな町」

- ・アピール方法

→行事が多く、みんながつながっていることをアピール、自分たちの魅力の認識

- ・具体策

#### iii) Cグループ

- ・まちのよいところ

→ボランティアが盛ん、地域が協力的（スポーツ大会）、自然災害が少なく住みやすい、一人一人のつながりが強い、自然が豊か

- ・キャッチフレーズ

→「四季彩豊かな米とスポーツのまち」

→「人間性豊かな住み良いまち」

- ・アピール方法

→個人発信に加え、公民館や公共と連携した発信

→地域で協力して河東マップの作成（魅力の発信）

・具体策

→地域の協力体制を活かし、個々のおすすめスポットの紹介（地図等含む）、

⇒ 全体説明後、3グループに分かれて作業をした。グループ名はつけていないが、会議録作成の便宜上、先に発表したチームをAチーム、2番目に発表したチームをBチーム、最後に発表したチームをCチームとして記載した。

⇒3グループのうち、2グループに市役所職員、1グループに日本経済研究所職員が入り、進行支援を実施した。

④ 全体講評（進行役）

- ・Aグループでは、「実際に地域に来てもらい、体験してもらおう」というところが大きなポイントとなっている。河東地区では、スポーツ大会をたくさん開催しており、地域でコミュニケーションの手段をとっており、今後発展の可能性を感じた。
- ・市内からのアクセスの良さが病院の誘致に成功したことを考えると今後も発展の可能性のある町である。また、魅力的な資源が豊富でポテンシャルが高いことは認識されたので、今後はどこに何をアプローチするか明確にするべきである。
- ・どのグループに共通しているが、住みやすく自然が豊かであり、人を惹きつける可能性がある町であることは十分に認識できた。また、市内へのアクセスが良好であることから、雇用を地域内で求めずとも問題がない。ただ、こうした魅力を有していても、地域に来た人を根付かせるところまでは考えられていない。これは、ある意味、河東地区が他地域に比べ、豊かであるからこそであるが、今後はポテンシャルを活かして魅力を発信することが定住人口増や交流人口増につながるだろう。

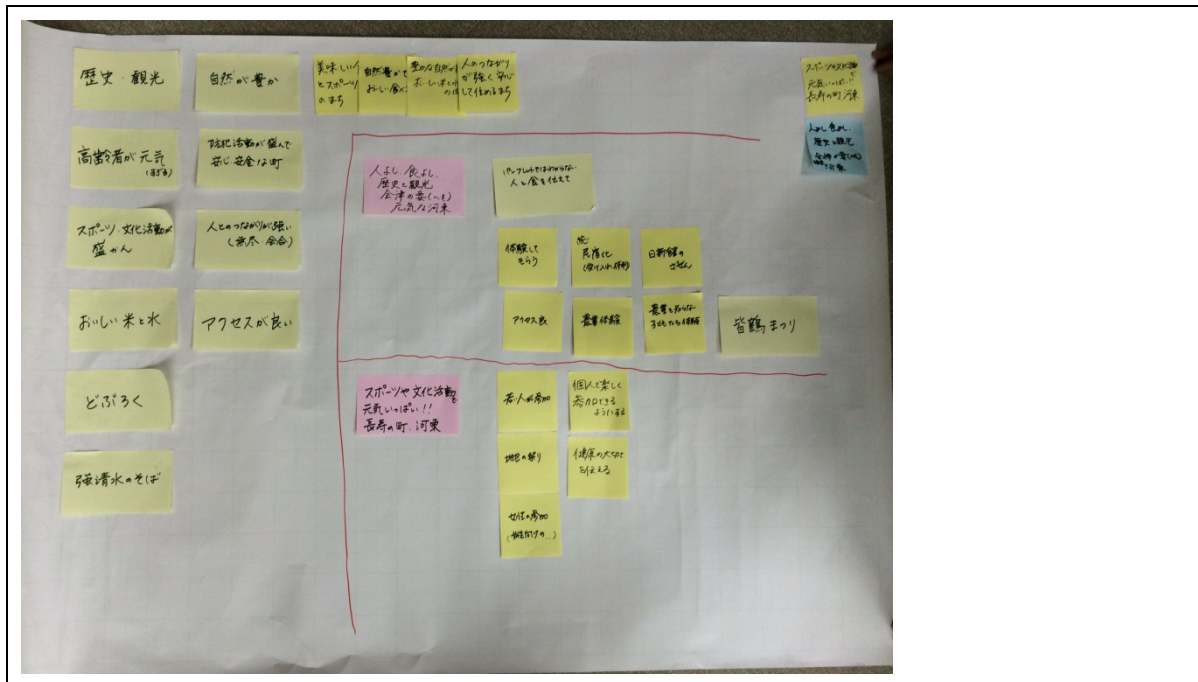
4. 事務連絡（企画調整課）

5. 閉会（企画調整課）

以上

【意見 (写真)】

Aチーム キャッチフレーズ、アピールする方法



Bチーム キャッチフレーズ、アピールする方法



# Cチーム キャッチフレーズ、アピールする方法

